

掲示板：第34章 救いの継続と完成

- [序 \[1\] \[2000年10月11日 17時20分26秒\]](#)
- [第一節 聖化 第一項 聖化の意味 \[4\] \[2000年11月 9日 15時12分57秒\]](#)
- [第一節 聖化 第二項 聖化の特徴 \[5\] \[2000年12月13日 20時50分34秒\]](#)
- [第一節 聖化 第三項 聖化：完全、あるいは不完全？ \[9\] \[2001年 2月20日 14時56分 9秒\]](#)
- [第二節 堅忍：序 \[1\] \[2001年 3月 1日 17時43分 3秒\]](#)
- [第二節 堅忍 第一項 カルヴァン主義者の見方 \[5\] \[2001年 4月 4日 8時10分16秒\]](#)
- [第二節 堅忍 第二項 アルミニウス主義者の見方 \[5\] \[2001年 5月16日 23時41分43秒\]](#)
- [第二節 堅忍 第三項 問題の解決 \[4\] \[2001年 6月13日 17時20分34秒\]](#)
- [第三節 栄化 第一項 「栄光」の意味](#)
- [第三節 栄化 第二項 信者の栄化](#)

記事タイトル：序

お名前：安黒務

 "Introducing Christian Doctrine" by Millard J. Erickson
 Part 10. Salvation
 第三十四章 救いの継続と完成
 序

エリクソン

前のふたつの章において、私たちがそれらを研究したように、救いの始まりは複雑で深遠である。

しかしそれらは、あらかじめ定められた御子のかたちと同じ姿に回復する神の特別な働きにおける最終目標ではない。

この変貌の働きが始まったなら、神はそれを継続し完成させられる。

解説 by Aguro

前にも記述しましたが、この「キリスト教教理入門」において、エリクソンが一番ページ数をさいていますのが、「第二部 啓示論」と「第十部 救済論」です。

啓示論に多くのページをさくところに、聖書を神の靈感によって書かれた誤りのない言葉とみる「福音主義者」としての告白があるようにも思います。また、救済論にページ数を使うところに、明確に新生した者のみによって教会を形成していく「バプテスト」としての立場があると感じます。

敬虔主義的な特質ももちます私の所属団体の関係からいきますと、聖化論を扱うこの章がひとつの章だけというのは少し寂しいような気がします。内容としましては、「聖化、聖化の意味、聖化の特徴、聖化：完全かあるいは不完全か、堅忍、カルヴァン主義の見方、アルミニウス主義者の見方、問題の解決、栄化、「栄化」の意味、信仰者の栄化」という構成になっており、「穏健カルヴァン主義者」を自認するエリクソンらしい構成となっています。

聖化の定義・意味・特徴から吟味が始められ、福音派内で議論の分かれる「完全」について、それぞれの立場の議論の根拠となっている聖句のひとつひとつを解釈しながらの解説はなかなか、説得力がありわかりやすい内容になっています。

救済論と教会論とは、信徒の方にもなじみの深い領域ですので、興味をもって学んでいただければと思います。

関連聖句

ローマ人への手紙

8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

8:29 なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。

8:30 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。

参考文献

・小島伊助「義認・聖化・栄化」いのちのことば社

[2000年10月11日 17時20分26秒]

記事タイトル: 第一節 聖化 第一項 聖化の意味

お名前: 安黒務

"Introducing Christian Doctrine" by Millard J. Erickson

Part 10. Salvation

第三十四章 救いの継続と完成

第一節 聖化

第一項 聖化の意味
第三段落

エリクソン

聖化のこの意味は、新約聖書においてもまた見出される。ペテロは彼の読者を「選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民」（1 ペテロ 2:9）として言及している。

ここで、「聖なる」は「主に属する」ことを意味する。この意味において、聖化はまさに再生や義認に沿う形において、回心の時点、クリスチャン生活の始まりにおいて起こっているものである。

この意味において、新約聖書は彼らが完全から程遠いときにさえ、非常にしばしばクリスチャンを「聖徒」として言及している。たとえば、パウロはおそらく彼が仕えた教会のうちで最も不完全であったにもかかわらず、この形においてコリントの教会にいる人々に話しかけている。

関連聖句

新改訳 ?コリ1:2

1:2 コリントにある神の教会へ。すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。主は私たちの主であるとともに、そのすべての人々の主です。

解説 by Aguro

エリクソンは、「聖化論」を説明していく最初に「聖化の意味」を扱っています。そして「聖化」には地位・立場に関係する意味と状態に関係する意味があることを教えています。今日はその続きです。

先週の段落では旧約での意味を観察し、今週の段落では新約での意味をみています。これは、エリクソンの組織神学の特徴で彼は「まず第一義的に聖書...、最初に旧約の関連箇所、次に新約の関連聖句...」というかたちで議論の土俵をつくっていきます。

「聖化」とは、まずは基本的には「地位的聖化」であることをきちんと認識することが大切です。「状態としての聖化、あるいは実質的聖化」はその結果として次にくるものです。

「聖なる」は「主に属する」ことを意味し、主の所有とされている立場のゆえに、そのようなものであるのです。クリスチャン生活の開始の時点としての「再生、義認、回心」において、「地位的聖化」は完全であるということです。

パウロは、問題の多い教会でありましたコリントの教会のクリスチャンへのあいさつの最初ことばにおいて「聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ」と導入しているのは注目すべきところです。

パウロは挨拶の中でわざわざここまで書かなくても思わないでもないのですが、クリスチャンにとっては、何気ない日常の挨拶の中にも「神学」が反映されることを教えられます。

このことは私たちの人生が人間関係の「水平軸」のみではなく、神との関

係、身分、地位という「垂直軸（神学軸）」においても生きるものとされている、いや恵みとしての垂直軸こそが私たちの生活をコントロールする根源であると教えられます。

世の人が見ないものを私たちは見ており、世の人が評価しない事柄を私たちは評価して人生を歩みます。

[2000年11月1日 22時15分16秒]

お名前: 安黒務

"Introducing Christian Doctrine" by Millard J. Erickson

Part 10. Salvation

第三十四章 救いの継続と完成

第一節 聖化

第一項 聖化の意味

第四段落・第五段落

エリクソン

(第四段落)

聖潔あるいは聖化の第二の意味は、道徳的善良さとか霊的真価に関係がある。

この意味は序々に優位を占めるようになっていく。

それは信者が立場上別にとっておかれるとかキリストに属するとかという事実を描いているだけではなく、彼らがそのときそれに応じて行為するようになることを描いている。

彼らは純粋さと善良さのある生活を生きるようになる。

(第五段落)

聖化の性質により鋭く焦点を置くために、聖化を義認と対比することは助けとなるだろう。

たくさんの意義深い相違が存在する。ひとつは期間に関係している。義認は、瞬間において完全な、即時的な出来事である。しかしながら、聖化は完成されるまで一生涯を必要とするプロセスである。

同様に、質的な相違も存在する。人は義と認められるか否かのどちらかである。しかしながら、人はより多く、あるいはより少なく聖くされるかもしれない。つまり、聖化には程度というものが存在するが義認はそうではない。

義認は、私たちが以前みてきたように法的あるいは宣言的事柄である。しかるに、聖化は人間の性格や状態の事実上の変化である。

義認は、神への私たちの関係という、神の御前における私たちの立場に影響する客観のみわざである。しかるに、聖化は私たちの内的な人格に影響を与える主観のみわざである。

解説 by Aguro

第四段落は簡単な内容ですので、今回は第五段落も一緒に翻訳を掲載させていただきます。

エリクソンは、聖化における二重の意味：「1．立場と2．状態」を最初に説明しました。

そして今日の個所では、「立場としての義認」と「状態としての聖化」を対比して「時間的要素」と「質的要素」などを考察しています。

義認と聖化の内容をきちんと理解するだけでも、私たちの霊的生活の整理に大きな助けとなります。

[2000年11月9日 15時12分57秒]